

2021 年度年次大会共通論題「地域創生と企業家活動」 をめぐって

山田 幸三 ・ 田中 一弘

大妻女子大学教授 一橋大学教授

2021 年度企業家研究フォーラム年次大会は、2021 年 7 月 10～11 日にオンラインで開催されました。11 日の共通論題「地域創生と企業家活動」では、歴史的・社会的背景の下で地域の人々や事業者が主役となって「自律した地域を創り出す」という「地域創生」の観点から 4 つの報告がなされ、旧来の制度や仕組みを再構築する企業家活動の多様な論点が提起されました。本来は 2020 年度年次大会の企画でしたが、コロナ禍で自由論題のみの大会となったため、今年度の共通論題となりました。開催に向けてご尽力いただいた報告者、討論者、司会者の先生方に改めて厚くお礼を申し上げます。

これまで『企業家研究』では、直近に開催された年次大会での「共通論題」について、大会当日に行われた報告や討議の内容に即した形で問題提起者や報告者が執筆した要約ないし論文等を掲載する、というスタンスをとってきました。いわば「年次大会当日のセッションの再現ないし記録」であったわけです。

今回の『企業家研究』では、そうしたこれまでの位置づけとは趣を異にするアプローチに挑戦してみました。「年次大会当日の議論も参考にしつつ、改めて『地域創生と企業家活動』というテーマで共通論題登壇者から論文を募る」ことにしたのです。共通論題登壇者には報告者のみならず、問題提起者と討論者も含まれます。論文を寄せていただくに際しては、「地域創生と企業家活動」というテーマに関する論文である限り、大会当日の報告内容や発言内容を踏襲するものでも、そこから派生したものでも、いずれでも歓迎、という方針をとりました。

その結果、山田幸三「地域創生と企業家活動ーウィズ・コロナ社会におけるファミリービジネスの役割ー」、岡室博之「創業支援政策の地域分権化とその効果」、保田隆明「購入型クラウドファンディングとふるさと納税の隆盛の背景と今後の課題」、田中幹大「地域資源としての都市型産業集積ー大阪機械工業集積史の視点からー」、松永桂子「産業都市の変容にみる地域創生と社会包摂」、福嶋路・田路則子・五十嵐伸吾「外的圧力による同時多発的スピノフの出現とネットワークの形成ーアルプス電気盛岡工場からのスピノフの事例ー」の 6 つの論説を掲載できる運びとなりました（なお、共著論文の著者には共通論題登壇者以外の方も含まれています）。

近年、日本の大学における研究成果の発信については、海外の査読付き学術雑誌を中心として投稿することが奨励されるようになってきました。そうした中において、国内の学会と学会誌には、所属する研究者の取り組むテーマやその成果の発信の場であるとともに、海外の査読付き学術雑誌への投稿や学術書の公刊を見据えたマイルストーンとしての意義を見出すことができます。

その意味において、学会誌の共通論題特集が、学会報告の再現性を重視するだけでなく、諸般の事情が許せば、報告者、討論者、参加者によって展開された論点を深耕させ、現時点でのフロンティアを目指すという方向性に価値はあると思われます。

アカデミックな研究成果には、従来の枠組みに囚われない視点からの分析の積み重ねによって新しい論点を切り開くことが求められます。今回の試みが、学会員による多くのユニークな論稿発表の契機となることを願ってやみません。